

坂戸市都市計画マスタープラン(案)及び坂戸市立地適正化計画(案) 市民コメントの結果について

1 募集期間

・令和6年11月1日(金)から令和6年12月2日(月)まで

2 意見結果

・意見提出者数 3名(うち団体1)

・意見提出件数 19件

■ 1人目

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
①		「第2章本市の将来像」移動導線に対して、坂戸市では特に学生の通学に対しての導線を追加してみたいかでしょうか。	教育施設が集積するエリアは文教拠点と位置づけ、各拠点と公共交通軸でつなぐことでネットワークの形成を図ります。 また、公共交通軸は、今後も機能維持・充実を図ります。
②		坂戸市では近年サイクリストが多く、特に川越から東松山の物見山やときがわ町への移動導線がヒートマップ上でも顕著に表れていることから、安全性や利便性の向上により沿道の飲食店にとってメリットが大きい。 ※strava グローバルヒートマップによる調査	近隣都市とつながる幹線道路については、「3. 道路・交通の方針(2) 施策の方向性 1) ①計画的な幹線道路の改良・整備の促進」の中で、将来交通量等を考慮しながら、計画的に改良・整備を進めることとしており、安全性や利便性の向上に努めていきます。 また、自転車に関する内容は、「3. 道路・交通の方針(2) 施策の方向性 4) ①生活道路や歩道の整備・改善」の中で、路線や区間の特性を踏まえた自転車通行帯の整理を推進することとしています。
③		都市連携軸では、越生線から鶴ヶ島へ渡る導線に対して、市として全く考慮されていない為、特に浅羽地区から圏央鶴ヶ島や407へ出づらい傾向にあり、そのシワ寄せが関越道高架下の狭い踏切に集中していると言わざるを得ないが今回の案でもその改善策が一切見られないことに落胆している。	「3. 道路・交通の方針(2) 施策の方向性 1) ①計画的な幹線道路の改良・整備の促進」の中で、将来交通量等を考慮しながら、計画的に改良・整備を進めることとしており、幹線道路網の強化に努めていきます。

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
④		<p>万年橋から北側に向け導線が全く考慮されておらず、最近ではガードレール設置に際し小学生の通学（西側）に対しては安全性は向上したが、東側にガードレールを取り付けた為幅が非常に狭く、僅か 100 日で 20 件以上のガードレール破損を観測している。</p> <p>また、長さ 30 cm の金属片が飛び出していたり（※推定ですが車のボディーがガードレールのボタン型の金具に引っかかり、これが捲れてガードレールに残ってしまっている）、大型車の進入（※北側からは大型車進入禁止の標識が掲示されていますが、南側からの進入に対しては表示が無く、こちらは維持管理課様へ厳重に抗議を行っています）業務品質のレベルが低い状況です。</p>	<p>「3. 道路・交通の方針（2）施策の方向性 4) ①生活道路や歩道の整備・改善」の中で、段階的に整備・改善を図ることとしており、引き続き道路の安全性・快適性の確保に努めていきます。</p> <p>ガードレールの破損等については、適切な維持管理に努めていきます。</p>
⑤		<p>近年物流拠点として倉庫が多くなっており、道の駅型の休憩施設やランドリーやシャワー等、働く人を考えた施設の設置、地域振興やスポーツ活動拠点もできて、ハードへの投資と、ソフトとして道路占有許可に対し歓迎の意志を示す事も大事ではないでしょうか。</p>	<p>今後も様々な施設が市内に立地・誘導できるよう、引き続き計画的かつ効果的なまちづくりに取り組んでいきます。</p>
⑥		<p>日本では前例のない空の空間に対する法整備を行い、今後セイノーさんのドローン配送などに対応しやすい街づくりの検討を進めるべきではありませんか。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
⑦		<p>坂戸小学校前を防災時に効果の高い場所だと思われませんが、ラウンドアバウト化し、平時でも 3 回に 1 周する信号を無くし信号待ちを無くしカーボンニュートラルに貢献しませんか？</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
⑧		<p>市内在住のネット上で影響力のある人材と連携できる仕組みを作りませんか？</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>
⑨		<p>市内の例えば 50 人規模以上の事務所で通勤に対するバス利用のニーズ調査を定期的実施してルートなど改善しませんか？</p>	<p>いただいたご意見につきましては、今後の取組の参考にさせていただきます。</p>

■ 2人目(団体)

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
①	P 3 … 計画の位置付けと役割	<ul style="list-style-type: none"> ・坂戸市マスタープランは第7次坂戸市総合計画が上位計画に位置付けられておりますが、第7次坂戸市総合計画によれば、マスタープラン作成にあたってはPDCAサイクルをまわして作成することになっています。 ・この度のマスタープラン改訂にあたっては、現状のマスタープラン（平成24年一部改訂版）の何が達成できて、何が達成できなかったのか、また達成できなかったものについては何が課題なのかをご教授頂きたい。 ・毎回、前回の計画をご破算にして進むと方向性に一貫性がなくなることから、今回の改訂も民間企業の中・長期計画立案でも採用されているPDCAサイクルで見直しをして頂きたい。 	<p>現計画に基づき、各種事業を推進してきましたが、達成が図れなかったものについては、社会情勢の変化、関係者との調整の長期化等が課題となっています。</p> <p>各種事業については、坂戸市行政評価（事務事業評価）に基づき、PDCAサイクルに沿った効果検証と見直しを行っており、今後も継続していきます。また、新たな事業についても、立案段階からPDCAサイクルを踏まえた事業計画の策定に努めていきます。</p>
②	P 26 … コンパクトなまちの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトなまちの実現 地方都市のコンパクトシティ化は、国の基本方針であり坂戸市もまちの中心部で駅に近いエリアに市役所など公共サービスや医療、託児所、保育園、老人介護施設、公共駐車場、図書館、教育施設をまとめ利用者の利便性と坂戸駅周辺への集客力向上を図って頂きたい。 ・身の丈に合わせたコンパクトシティ化 東京・神奈川県などの大きな都市では、人口が多く駅前に大型商業施設を誘致してまちづくりを成功させているが、地方都市が真似をしても失敗（秋田、青森など）しているケースがでている。 ・坂戸市などの地方都市では、大型商業施設ではなく将来にわたり住民にとって普遍的に必要な公共サービスをまちの中心（特に駅周辺）に持つことが重要と考えます。 ・公共サービスには一定の人の流れが常に発生する傾向にあり、一定数の人の流れがあればやがてその周辺にはネットでは対応できない個性的飲食店やアパレルショップなどができ、都会とは違った個性あるまちづくりに発展する可能性があります。 ・その結果定住人口が徐々に増加し市の税収も増えるなど波及効果が望まれます。 	<p>坂戸駅をはじめとした鉄道駅周辺などに位置付けている中心拠点等では、様々な機能・施設の立地を誘導しながら、コンパクトな都市の形成を図ることとしています。</p> <p>また、坂戸市立地適正化計画では、その具体化を図るため、中心拠点では市内外の利便性向上に向け、大型商業施設のみならず、その他の公共施設や子育て施設等も併せて誘導しながらまちづくりを推進していきます。</p>

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
③	P 3 7 … 中心拠点	<p>・「坂戸駅及び若葉駅、北坂戸駅」とありますが中心となる拠点は、交通の拠点で TJ ライナーが止まる坂戸駅を拠点とすべきではないでしょうか。</p> <p>・特に坂戸駅北口は前述のドーナツ現象による空洞化が進んでおり地権者としても現状維持に苦慮していることが想像され、北口の総合開発のチャンスでもあります。</p> <p>・坂戸駅北口は計画道路が予定されており、この道路の建設を起爆剤にして県道部分や市道部分、駅前ロータリーを起点にして、公共施設を中心に配置する再開発を進めるべきではないでしょうか。</p> <p>★以下に坂戸駅北口の再開発のアイデアレベルではありますが、基本的な考え方を提案致します。</p> <p>・市役所など公共サービスや医療、託児所、保育園、老人介護施設、公共駐車場、図書館、教育施設、交流センター、ホテル、イベントホールなど共通的施設を坂戸駅北口に集中して配置する。</p> <p>・特に坂戸市役所や公共サービスが入るビルは耐震力を確保するため免震構造を採用し、ここを坂戸市の行政・防災の拠点とする。</p> <p>・市役所の周辺には託児所、幼稚園を配置して子育てしながら都心まで通勤するサラリーマンをサポートする。</p> <p>・坂戸駅北口には公営の立体駐車場を確保して、都心等への通勤・通学者には格安のパスを発行する。</p> <p>・北口に配置する公共サービスが入る施設は、坂戸駅通路に繋がるシェルター（2階面の屋根付き歩道）でつなぎ通勤・通学者の利便性を図る。（雨が降っても傘なしで施設間を移動できる構造とする）</p> <p>・特に子育て時代の通勤者は次のルートで生活できるようにして、目指すは日本一子育てがしやすいまちづくりで、都心から1H程度で通える便利さと、空き家のリノベーションによる低価格住宅の提供などにより空き家対策と人口増も見込める。</p> <div data-bbox="571 1496 1053 2027"> <p>【通勤ルート】 自宅→(自家用車、公共交通)→公営駐車場→託児所・幼稚園→坂戸駅→都心他勤務先</p> <p>【帰宅ルート】 都心他勤務先→坂戸駅→食料品類ショッピング→託児所・幼稚園→公営駐車場(自家用車、公共交通)→自宅</p> <p>【坂戸駅北口総合開発イメージ図】</p> </div>	

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
④	P 38 .. 市内連携軸 (計画道路に推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・「市内連携軸」とされている計画道路の「中富町片柳新田線」については、坂戸駅北口の総合開発の起爆剤でもあり、早急に建設を進めるべきである。道路の建設なくしてまちの発展はないともいえる。 ・鶴ヶ島市のマスタープランを拝見すると道路建設に力を入れていることがわかります。特に若葉駅西口、一本松駅南口、西大家駅南口は主要幹線道路を着々と建設していて、特に若葉駅西口は幹線道路整備がかなり進んでいてマンションも多く建設されている。 ・主要道路が盛んに整備されている鶴ヶ島市は、若葉駅西口を中心に将来大きく発展するポテンシャルを持っていて、将来市役所が若葉駅西口付近に移転してくれば、鶴ヶ島市スマートシティの中心部が若葉駅南口に出現することになる。 ・競争することに意味があるわけではないが、坂戸市も鶴ヶ島市に負けられないように主要道路の建設にもっと力を入れて頂きたい。 	<p>「市内連携軸」は、市内の拠点間や地域間との連続的な道路ネットワークを担う重要な路線であるため、引き続き、幹線道路の整備による交通利便性の強化を図るとともに、長期にわたり未整備となっている都市計画道路については、社会状況の変化に伴う必要性、構造の適正さ等の検証を行いながら、見直しを含め検討を行います。</p>
⑤	P 49 .. 防災上支障のある狭隘道路の整備・改良	<ul style="list-style-type: none"> ・狭隘道路については、現状のマスタープランと同じ文章（密集している住宅地の狭あい道路など、防災上支障のある生活道路の整備・改善を図ります）となっておりますが、実施に計画は進んでいるのでしょうか。最近の狭隘道路の整備実績をご教示ください。 ・狭あいは市内に多数存在するが特に市内中心部の狭隘道路は広域の地震災害以外にも火災や急病人発生時の緊急車両の進入に障害が実際にでているので、早急な対応をお願いしたい。 	<p>狭あい道路を含めた生活道路の整備については、地域からの請願・陳情等に基づき進めています。</p> <p>今後も地元関係者のご理解とご協力をいただくと共に、財源の確保に努めながら、本計画に基づき、生活道路の整備を進めていきます。</p>
⑥		<ul style="list-style-type: none"> ・以下はマスタープラン全体に関する意見です。 ①本マスタープランはまちづくりの基本方針と解釈できますが、市民としては単なる方針だけ提示されても理解できないので、基本的施策と概略のスケジュールをセットで提示して頂きたい。 ②マスタープランの見直しに際しては、前バージョンの評価と新バージョンのポイントをまず記載すべきです。 あくまで PDCA サイクルの連続性の中で方針の評価と改善を繰り返して改善の積上を図るべきです。 ③まちづくりについては、一般市民は十分な知識がないため市民に意見を求めてプランを作成するのではなく、都市計画課で具体的案を作成してから市民に検討してはどうでしょうか。 具体的案が出てくれば市民の議論が活発化してより良い案が出やすくなると思います。 	<p>本計画は 20 年後を見据えた長期的な方針・考え方を示す計画であるため、各取組の詳細なスケジュールは記載していません。</p> <p>個別の事業に関しては、今後とも市民参加条例に基づく手続きのなかで具体案やスケジュールの説明等を行うとともに、市民皆様からのご意見等を伺っていきます。</p>

■ 3人目

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
①	序章	<p>「坂戸市都市計画マスタープラン」(以下プラン)の位置づけ(p3)を見ると、プランは「子育て・教育・福祉……」と対になって「第7次坂戸市総合計画」を構成することになっている。「器」と「中身」が別々に議論されることになっている。プランを作る際に重要なことは「坂戸市にはどのような人達が住んでいるのか」という点である。これはデータによって考察することができる。まず、坂戸市は徐々に人口が減少しているが、人口減少の主な要因は労働人口の減少であることが示されている(p9)。即ち、子育て世代の坂戸市離れによる。子育て世代に重点を置かないと坂戸市の発展は望めない。「子育てが楽しいまちにするには、どんな『器』を作れば良いのか」と考えていけば課題が明確になっていくと思われる。</p>	<p>本計画は20年後を見据えた長期的なまちづくりの方針や考え方を示す計画であり、まちづくりは多分野かつ広範囲にわたっていることから、その実現化にあたっては個別計画において具体化を進めていくこととなります。</p> <p>また、本市が目指す将来像を共有しながら一貫性をもった取組を進めてまいります。</p>
②	第1章	<p>序章で述べたように住んでいる市民の「中身」が別々に述べられているので、プランでは全体的に市民の顔が見えない。市民の顔が見えなければ市民が何を望んでいるのか分からないし、適切な対応もできない。しかし、幾つかのヒントはある。まず人口の動態から、人口は徐々に減少し(p9)、学生が流入するが増加分以上に転出し(p10)、市内の商工業従事者は11,163名(p15)、農業従事者は385名(p16)であり、残りはその他や市外の事業従事者、或いは無職ということになる。また、交通手段を見ると70%近くが鉄道か自家用車を用いており(p19)、多くの人が市外に働きに出ていることが推察される。即ち、坂戸市民の多くが坂戸市をベッドタウンとして生活をする子育て世代の勤労者ということになる。子育てをし易くするにはまずは保育園が利用し易くしなければならない。通勤に利用する電車の駅の近くに保育園があれば通勤の行・帰りに利用することができる。また、バス路線などの拡充を図り、居住地が最寄りの駅から遠い場合でも通うことができるようにすることで坂戸市に子育て世代を呼び込むことができると考えられる。</p>	<p>坂戸駅をはじめとした鉄道駅周辺などに位置付けている中心拠点等では、様々な機能・施設の立地を誘導しながら、利便性の高い都市の形成を図ることとしています。</p> <p>また、その具体化を図るため、坂戸市立地適正化計画では、子育て施設をはじめ日常生活での利便性を高める施設を誘導しながらまちづくりを推進してまいります。</p>

No	頁	意見・提案	対応とその考え方
③	第3章	<p>農地ゾーンに関して、優良農地に関しては「農業生産の場であるだけでなく、都市にうるおいを与える緑地空間、郷土景観として貴重な機能も有する」(p46)となっている。自給率 38%しかない日本の現状に目を向けていないばかりでなく、そこで働く農業従事者にも目が向いていない。農業の推移 (p16) を見ると、専業農家が急激に減少していることが解る。日本の農業政策がその根底にあると考えられるが、坂戸市は農家が自立できるように真剣に対策を立てる必要がある。大規模化で世界に進出するような農業を考えるのではなく、坂戸市民相手の農業でも十分に成り立つと考えられるので、給食、食堂や市民に供給する仕組みに力を尽くすべきである。</p>	<p>本計画では、農地が生産の場のみならず、都市的な観点からも重要であるため、その保全を図っていくとしています。</p> <p>なお、農業施策等の具体的な内容については個別計画で検討してまいります。</p>
④	第4章	<p>地区に関する各論については概ね妥当であると考えられる。各地区で共通の部分と特色のある部分が存在し、重点項目も示してあるが、軽重はあるにしても、ほとんどの項目は各地区で共通する。総体として坂戸市はどのようなまちづくりを目指しているのかを示した方が解り易い。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 防災（地震、水害）に対する強靱化計画 坂戸市は水害、震災に被災する可能性が周辺の市町村に比べ格段に高い場所に立地している。市民が安全に暮らしていくには危険性を可能な限り軽減する必要がある。 2. 防犯（火事、犯罪）に対する強靱化計画 近年の犯罪の傾向が集団的、暴力的、計画的になっている。市民が安全に暮らすには様々な方法を用い防犯に努める必要がある。 3. 空家の撤去、狭隘な道路の拡幅、など居住環境の整備 長い間空家になっている場合が多々見られる。空家の庭には草木が繁茂し外観上悪いだけでなく、防犯上も問題点がある。放火や裏から侵入する経路にもなる。 4. 子育てにやさしいまちづくり。 坂戸市で子育てをしたいと思わせるまちづくりを目指す。職場と保育所が同じ動線にあれば子育ての物理的負担が軽減される。子供の給食に安全で新鮮なものが供給されれば、親も安心できるし、農家も安定して農業に従事することができる。子供も大切に育てられれば坂戸に住みたいと考える。その子はいずれ伴侶を伴って坂戸市に住むことになる。 	<p>本市の目指すまちづくりの方向性として、4つの「まちづくり目標」を掲げており、ご意見いただいた防災・防犯や居住環境、子育てにつきましても、この目標に基づきまちづくりを進めてまいります。</p>